

ありがとうお母さん



親戚から「アンタ、カアちゃんに似てきたナァ!」と言われる私も後期高齢者になった。父母は大正生まれで、青春がスッポリと戦争時の気の毒な年代人であった。父が出兵して「何処で何してて生きてるのヤラ???」の中で私は産まれた。「ホクロひとつ無い玉の様な赤んぼだった」と母は私に言っていた(笑)昭和初期に勤め人の母は早々に洋服で通勤したモガ(モダンガール)だったらしい。終戦後は失職して家の庭を畑にして野菜作りに精を出して真黒に日焼けしていた。今私は長風呂が好きだけど、そう言えば母の長風呂は呆れる程だった。どうやら同じことが好きも似てきたか?自身がこんなハズじゃない戦中戦後人生だったからか、私には選択肢を見守ってくれた処の私の「此の人生を有難う」「健康を有難う」です。みっちゃん母さんへ。

良良2様

給食がなくなった高校時代には毎日弁当やおにぎりを作っていただきました。学食で食べることもできましたが、やっぱり母の味が一番です。これからも長生きして下さいね。チャコ様

今は亡き母に感謝。自分自身が親になり子育ての中でどれほど母が色々な面で私に教えてくれた事が役に立ち物事をする時の力になっています。体の中、心の中に困った時などの対応力をきびしさの愛情のおかげだったと思います。5月の季節に咲く月餅ウツギの花を見ると母に会いたくなり、お墓へ会いに行きおしゃべりしています。ラピス様

私の母は満90歳。庭に生えるフキ・ミョウガ・ミツバを大切に育てています。昨日もフキをたくさん収穫してゆでたり皮をむいたりしていました。ずっと死ななくてくれと無理なお願いを抱いています。カンパネラ様

暑さが日ごとに増してまいりましたが、皆様いかがおすごでしょうか。6月といえばやはり「梅雨」や「あじさい」「傘」など雨に関連するものをイメージする季節ですね。そこで今月のお題は「**雨の日の過ごし方**」と題し、皆様がオススメの雨の日の過ごし方を大募集!採用された方にはグルメセットをプレゼント♪ 沢山のご応募お待ちしております。



イラストギャラリー



トコトコ様

素敵なイラストをありがとう!!

水無月



Hydrangea

カンパネラ様



3分読んだら明日が変わる大逆転へのトビラ

定価1210円(税込み)

学校の朝の読書でも大人気のショートストーリー集。

本書は、学校を舞台にするなど、小学生にも身近な設定の物語も多く、すべて短いお話なので、読書が苦手なお子さまでも楽しむことができます。時空を超える「トビラ」が各話で鍵を握ります。扉を開くと主人公たちの運命の歯車が動き出し……。タイトル通り、ラストにはあっと驚く「大逆転」があり、読みごたえも抜群です。4人の著者はいずれも児童書で活躍する実力派ぞろい。物語の世界へ子どもたちをぐいぐい引き込みます。さらに、ゾットするお話を集めた「恐怖へのトビラ」、キュンとする短編集「初恋へのトビラ」も好評販売中! ぜひ、あわせてご覧ください。



ペットの写真大募集~!!



わが家のペット紹介に載せませんか?!

inutsuka@air.ocn.ne.jp まで

ASA川口中央の招き猫 ロンシャン君の不定期日記

★プロフィール☆
名 前:ロンシャン君
住まい:川口市赤山
朝日新聞販売店

vol.142



こんにちはロンシャンです!

今日から6月、今年もあっという間に5ヶ月が過ぎ梅雨入りを迎えますが皆さんお元気ですか?

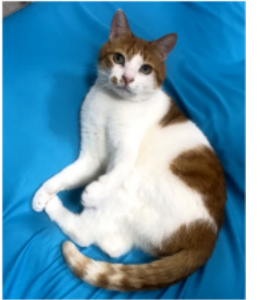
6月といえば衣替えの時期、妹弟たちも洋服や制服が夏バージョンにボクラ猫も毛が生え変わる季節です。



お家の中はボクの白い毛がいっぱい舞っていますよ! 黒いお洋服でボクを抱っこすると大変です♪

皆さん、来月号では毎年恒例ボクの団扇プレゼントがありますので是非ご応募お待ちしております☆

それではまた来月ロンシャン日記でお会いしましょう🐾



渇水、原油……
相次ぐ人災は知恵で解決を

朝日新聞立川支局員 山浦正敬

「東京砂漠」は1976年にヒットした歌謡曲のタイトルです。都会の乾いた人間関係を絶妙に表現した題名は、発売12年前の社会問題に起因します。国内初の五輪開催を目前に控えた東京が、大渇水に見舞われました。給水制限が84日間も続き、「東京サバク」が同年の流行語にもなりました。その後も全国の都市化の進む地域で渇水が相次ぎます。福岡市では給水制限が287日間にも及びました。急激な人口増に給水能力が追いつかない「人災」とされ、給水車には連日、多くの市民が並びました。今年も年初から、西日本を中心に小雨によるダムの水位低下がニュースになりました。「人災」というよりは気象による「天災」の様相です。春先の雨でやや緩和されたものの、梅雨の雨量が気になります。多過ぎず、少な過ぎずを願います。しかし、今年の心配は水不足だけではありません。イラン情勢の悪化で、中東からの原油輸入に懸念が広がりました。70〜80年代の2度にわたる石油ショックを経験した世代としては、トイレットペーパーの買い占め騒ぎをまず思い起こします。こちらは国際紛争という「人災」です。最初に武力を使った米国・イスラエルだけでなく、国内でも国会前などで戦争などに反対する集会が行われます。「人災」ならば知恵で解決して欲しい。SNS中心の時代でも、街頭でプラカードを掲げ、声をあげる人の輪に、若い世代も目立ちます。

砂漠でスキーの夢

朝日新聞論説委員 西山 良太郎



砂漠のど真ん中で雪と氷の祭典を開きたい——。季節外れですが、今回はそんな「夢」の話です。

アラビア半島の砂漠の国サウジアラビアで、2029年の冬季アジア大会が決まったのは4年前でした。

会場は建設中の未来都市ネオム。2千㍍級の山岳地帯まで広がり、冬は零下になって、一部降雪もあるそうです。

残念ながら競技ができるような積雪はなく、コースには人工雪を使います。建設するリゾート施設の電力はすべて再生可能エネルギーで賄う予定ですが、環境への負荷は心配です。

ネオムはハイテク分野などの産業を育成し、脱石油を図る政策の中核です。その一部として冬季競技の人材を育て、環境を整えながら、西アジアの拠点を目指す、という計画です。

しかし、クリアすべき課題は容易ではありません。山の断崖にせり出す湖やホテルの屋上を滑るスキーコースなど、さまざまな難工事の経費は、当初の5千億ドルから3倍に膨れあがりました。工事は思うように進まず、最終的に大会開催を断念。今年になって、カザフスタンでの代替開催が決まりました。

サウジアラビアへは、表現の自由の抑圧や、外国人労働者と女性への人権問題などに批判があります。

スポーツでも、金に糸目をつけずに著名サッカー選手を集め、自動車イベントを招致するなど人権問題を隠すために活用する「スポーツウォッシング」の批判もつきまとっています。

国家政策と財政のはざまに「砂漠でスキー」の夢に第2幕はあるのでしょうか。